

# 地域リハビリテーション支援センターだより

(神奈川県リハビリテーション支援センター)

平成31年3月発行 NO-70

地域リハ支援センター

## 第15回かながわりハビリテーション・ケアフォーラム

# 「被災地から学ぶ 災害後の地域生活」

平成31年2月2日(土)に、横浜情報文化ホールにおいて、第15回かながわりハビリテーション・ケアフォーラムを開催しました。このフォーラムは、地域リハビリテーションに係る最新の動向等について、県民や、医療・介護・福祉のリハビリテーション関係者に対して情報提供し、啓発するとともに、多職種連携の必要性・重要性を知っていただくために開催しています。また、近年地域リハビリテーションは、自身の主体的活動、地域住民の相互支援、社会保険制度の活用、公的支援制度の確立がかなめとなっており、その啓発することも目的になっています。



今回は「被災地から学ぶ、災害後の地域生活」と題して、前年度に続き災害に関するテーマを取り上げました。近年、地震のみならず風水害などの多様な災害によって避難生活を余儀なくされているニュースが多くなっています。災害後から地域社会の一員としてどのように活動すればよいのか過去の災害から学び、被災者であると同時に支援者となりうる地域社会を構成するすべての県民（地域住民、医療保健介護福祉、行政）と考える機会にしました。講演は、東日本大震災を経験された障害のある方とリハ専門職のお二方のお話と、茅ヶ崎市の災害に対する取組みを紹介して頂きました。その後質疑応答では受講者の皆さんから多くの質問が出されました。また、アンケートにもたくさんの意見が寄せられ、災害に対する関心の高さが窺われました。

(泉 忠彦)

### ■東日本大震災の経験を通して

#### ●自立生活センター自立の魂 当事者スタッフ 小野和佳氏

##### 災害後の障害者の地域生活 ～災害後にあらためて痛感した地域生活における課題～

福島県いわき市で自立生活センターのスタッフとして被災しました。その後の避難生活を経験し、障害を持つ人の地域生活、特に災害に備える生活とは何かについて講演していただきました。

#### ●岩手県作業療法士会 理事 鷹鷲悦子氏

##### 「今、ここで暮らす」に寄り添って ～東日本大震災における仮設住宅団地支援の経験から～

岩手県作業療法士会では発災直後の一次支援(4か月余り)終了後、約6年間の長期に渡る二次支援を行ってきました。被災者の地域生活の再構築をどのように支援してきたのか講演していただきました。

### ■神奈川県茅ヶ崎市の取り組み紹介

#### ●茅ヶ崎市市民安全部防災対策課 益田貴正氏

#### 茅ヶ崎市における避難所の役割と運営

#### ●茅ヶ崎市保健所保健企画課 柴田美紀氏

#### 茅ヶ崎市災害時保健福祉専門職ボランティア事前登録制度

## リハビリテーション研修報告

### 義肢装具セミナー：義足編

2月26日(土)、今年度の最後のリハビリテーション研修である「義肢装具セミナー 義足編」を開催しました。今年の義肢装具セミナーは義足編として、切断者のスポーツの取り組みをテーマに開催しました。義足に関わる医療者や業者からの専門的な講義だけでなく、競技用義足の体験や実際にスポーツを行っている当事者、スポーツの指導をされている方々からの実体験に基づく講義とデモがありました。初めて見るスポーツの様子や当事者の実際に走った姿を見させていただき、新たな発見と驚きの連続な1日になりました。今後もこのような機会を通じて、障害者スポーツの拡がりに寄与できればと思います。



(小泉 千秋)

#### 【講師】

- |                   |        |                 |        |
|-------------------|--------|-----------------|--------|
| ◆あべ整形外科クリニック      | 土屋 辰夫氏 | ◆パシフィックサプライ     | 大泉 寛紀氏 |
| ◆オットーボック・ジャパン株式会社 | 和田 真生氏 | ◆株式会社今仙技術研究所    | 鈴木 暁之氏 |
| ◆トライアスロン競技者       | 長田 信久氏 | ◆NPO法人さがみこども福祉会 | 大房 朋文氏 |
| ◆全日本スキー連盟         | 斎藤 禎彦氏 | ◆TSAFC 監督       | 菅藤 昌則氏 |
| ◆シドニーオリンピック日本代表   | 井川 里美氏 | ◆神奈川リハビリテーション病院 | 丸田 耕平  |

## 地域リハビリテーション推進研修

### 「みえないからみえるまちづくり企画」

平成31年2月18日(月)13時から17時まで、鎌倉市福祉センターにて、鎌倉市身体障害者福祉協会、NPO法人e-ライフサポート、当センターの共催で「みえないからみえるまちづくり企画」と題して、視覚障害者支援に関する研修会を開催しました。



鎌倉市身体障害者福祉協会会長である木村氏より当事者としての講話、七沢自立支援ホーム視覚部門の内野氏による視覚障害体験を交えた講演、鎌倉市社会福祉協議会による社会資源等に関する情報提供、就労継続支援A型事業所であるワーカビーより情報伝達支援に関する講義がありました。

当センターでも例年9月に視覚障害の研修会を行っていますが、今回の研修では「地域版」のような形でお手伝いをさせていただきました。今後も、地域のニーズに合わせた研修を共同企画できればと考えていますので、ご相談いただけたらと思います。よろしく願いいたします。(瀧澤 学)

### 「いっしょにつくろう！自立支援」

～リハ職とケアマネジャーの顔の見える関係づくり～



平成31年2月28日(木)東名厚木病院三思会記念ホールにて、厚木市医療福祉連絡会のリハ部会、ケアマネ部会、当センターの共催で研修会を開催しました。参加者はリハ職、ケアマネジャー合わせて60名の参加がありました。研修では、「自立支援」をキーワードに高齢者や障害者の生活支援に関わるケアマネジャーとリハ職が、互いの職種の理解を深めること、そして顔の見える関係を作ることを目的としました。まず介護老人保健施設さつきの里あつぎの理学療法士の前田玲さんより、自立支援とリハ専門職の役割について、次にケアマネ部会の会長の仁厚会訪問看護ステーションの井上康洋さんより、自立支援とケアプラン作成についてお話がありました。その後グループワークで、短い時間ではありましたがケアマネジャーとリハ職とで話し合いながら、提示された事例のケアプランを作成しました。充実した支援を行うためには、多職種連携、顔の見える関係は鍵となると思います。今回の研修をきっかけに厚木市において互いの関係を深めていって頂けたらと思います。

(一木 愛子)

## 高次脳機能障害セミナー就労支援編

1月19日(土)相模原市のおださがプラザにて就労支援編を開催しました。午前中に支援コーディネーターより「高次脳機能障害の地域支援」、職能科より「高次脳機能障害の就労支援」について講演を行いました。午後からのグループワークによる事例検討会、就労支援機関等の紹介では、相模原市での開催ということで、障害者就業・生活支援センター「松が丘園」の村山氏、「神奈川障害者職業センター」の榎村氏、地域活動支援センター「ぶらすかわせみ」の小林氏にご協力いただきました。

高次脳機能障害の就労支援では、退院後にすぐ復職したり、就労先を探したりするのではなく、自宅や地域での生活を送る中で、医学的な安定、生活リズムの安定、通勤の可否等の職業準備性を整える「社会リハ」の段階が重要となります。そのためには、医療、障害福祉、介護、就労支援等に携る支援者が、互いの職域を理解した上での多職種連携が重要となりますので、事例検討会では他職種の着眼点を理解することを目的としています。これを機に、地域内での情報交換や連携が活性化していただければと思います。(瀧澤 学)



## 高次脳機能障害事例検討会 in 藤沢

藤沢市高次脳機能障がい相談支援事業所チャレンジⅡの協力のもと、2月6日に辻堂で事例検討会を行いました。今回は、事業所同士の顔の見える連携や関係機関を知っていただく目的で、相談支援や通所の事業所の方に声を掛け、少人数で開催することを考えました。実際には、想定を大幅に



上回る31名の参加がありました。事例提供は湘南希望の郷ケアセンターの方にいただきました。利用者の今後の支援の見通しをどのように考えるのがいいのか、事業所の皆さんも抱えている悩みだと思います。このような事例を通して、高次脳機能障害の支援をしたことがない事業所の方にも、今後支援に役立つようなポイントをお伝えできたらと考えています。様々なところで、医療・障害・介護・就労の連携が大事だと話をさせていただいていますが、各分野の中でも横の連携ができ、その連携が全体にいい形で広がっていくよう考えていきたいと思っています。(佐藤 健太)

平成30年度

## 高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会

2月19日に神奈川近代文学館で委員会を開催しました。この委員会は、年1回、高次脳機能障害の支援体制等を議論する場となっております。神奈川県、政令市の取り組みや動向、今後の支援体制の方向性等について議論しました。相談支援の現場では、高次脳の話題があがることが少ないため、まだまだ普及が必要との意見、パンフレットやチラシについての周知の方法、高次脳機能障害の診断や診断書を記載する医療機関等についても議論を行いました。神奈川は他の都道府県に比べ、資源が充実していると言われていますが、これは地域の支援機関の協力や連携があったからこそ実現できているものだと思います。今回の議論についても、今後の事業展開に生かしていきたいと思います。（佐藤 健太）

### 高次脳機能障害のリハビリテーション

## 第5回 「記憶障害について」

Hi、みなさん。いかがお過ごしでしょうか。自分はすっかり日本の仕事のやり方に戻ってしまい、英国から帰国した当初に感じた日本の仕事は忙し過ぎるという感覚が随分薄れてしまったことを残念に思っています。英国では仕事100%の人生は褒められる対象では全くなく、事実100%にしない方が逆に成果が上がることも実感してきたのですが、なかなか難しいものですね。ここ最近は記憶力も随分落ちたなと感じているのですが、今回はこの記憶についてのお話をさせていただきたいと思います。

記憶の問題は、高次脳機能障害の中では最も頻度が高く見られる症状です。リハの視点でお話をすると、残念ながら記憶の機能を直接上げる方法はまだ見つかっていない状況で、代償手段の獲得、利用がその方法となっています。そして代償手段には、外的代償手段と内的代償手段とがあります。外的代償は頭の外にその手段を置くもので、代表はメモ、最近はスマホ等の利用がそれにあたります。一方、内的代償は、頭の中にその手段を置くものです。記憶法の工夫などがあたり、歴史の年号を語呂合わせで覚えるなどはその一例です。

留意点をいくつか挙げさせてください。一つは、脳外傷等の高次脳機能障害では、記憶の問題を考える際には記憶のことだけを考えるのでは足りないということです。高次脳機能障害では、各症状がお互いに関係するところが大きな特徴です。この点は次回に改めて話をさせていただきますが、記憶も注意力や情報処理能力の影響を受けるわけです。冒頭に申し上げた最近の自分の記憶力低下も単純に記憶だけの問題ではなく注意の問題が絡んでいると思っています。少し頭が疲れ気味なんですね、ハイ。

もう一点、代償手段の利用が脳機能を間接的に上げることがないのかという問題が、欧米では長いこと真面目に議論がされています。記憶の工夫をすることと記憶力が上がることは一見関係がなさそうですが、複数の神経が絡む高次脳機能障害では代償手段を用いても頭を使うことに意味があるようです。こうした点は、他の障害とは異なる、高次脳機能障害独特の部分と言えるかもしれません。

(Spring is really beautiful in Japan!)

(青木 重陽)

編集後記: やっと春らしくなりました。寒かったり、暖かすぎたりと体調を整えるのに戸惑われたのではないのでしょうか。今年度最後の「だより」になります。新年度を迎えるに当たり、1年間のおまとめを行いながら新年度に向けた課題整理を進めています。新しい年号の基で当センターは研修、リハ専門相談、地域リハ推進などに継続して取り組んでいきます。ホームページも新年度からリニューアルする予定ですが、県民の皆様によりよい情報提供できるように進めたいと思います。（泉 忠彦）

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516  
神奈川県総合リハビリテーション事業団  
地域リハビリテーション支援センター  
TEL:046-249-2602 FAX:046-249-2601